

2021/10/15-1

(うとQ世話し そもそもの 前編)

9月末に緊急事態宣言や蔓延防止措置(条例)等が解除されはしたものの、コロナ感染が終息したのかまだ年末に向けてふり返しがあるのか誰にも分からない現在。

分かっているのは従業員の感染リーク以来(現在は既に復帰)それ以前との売上比較で10%のダウンが続いていることとネット上で出している電子書籍が全くの鳴かず飛ばず状態で、それが売上減の穴埋め役としてまるで機能していない事態が常態化している事だけ。

それを踏まえて今後の身の振り方を

「さて、どうしようか？」

と考えることが多くなった昨今。

このような場合、自分がよくしてきたのは

「そもそも発端は何だったんだっけ？そもそも何をしようとしていたのか？何をしたかったのか？」

と言う自問自答を繰り返す脱出作戦の敢行。

ところが今回の様なビッグイベントは初めてなので、一体どの辺りまで遡ればいいのか見当が付きかねております。

起業時まででいいのか？

それとも社会人になった辺りまでなのか？

はたまた物心ついた辺りまでなのか？

(自我が芽生えた頃という意味です)

さて、何処が一体「そもそもの発端」なのか？

こういう場合、つまり迷ったときには一気に大本の元まで遡りたがるのが自分の性分なので物心ついたときまで遡ることにしました。

で、直上の「性分」という言葉から思い当たったのが

「何でもゼロから始めないと気が済まなかった」なあと。

それを説明するのに以下(次の記事)で記載を致しますが「こう言う書き方をしたらまず間違いなく読んだ人から反感を買うな」と思いつつも、それを覚悟の上で敢えてしたためてみたいと思います。

なぜならそれは事実だったからです。

反感を予測して無難に丸めて書いても仕方がないと思ったからです。

(続く)